

Du cinématographe à l'écriture : Anne Wiazemsky romancière

シネマトグラフからエクリチュールへ

——小説家アンヌ・ヴィアゼムスキー

ロベール・ブレッソン監督、さらにはジャン＝リュック・ゴダール監督作品の主演女優としてスクリーンを輝かせたアンヌ・ヴィアゼムスキーは、現在、フランスを代表する作家として健筆をふるっている。ブレッソン監督のもとでの撮影の記憶を初めて明かした作品『少女』の邦訳刊行を記念して、ヴィアゼムスキーにおける映画と小説の相関関係を討議する。



アンヌ・ヴィアゼムスキー Anne Wiazemsky

1947年生れ。女優、小説家。母方の祖父はノーベル賞作家フランソワ・モーリヤック。ロベール・ブレッソン監督の『バルタザールどこへ行く』（1966）、ジャン＝リュック・ゴダール監督の『中国女』（1967）等に出演。1998年『一握りの人々』でアカデミー・フランセーズ小説大賞を受賞。2007年、『少女』（國分俊宏訳・白水社）で大きな話題を呼ぶ。

ジャン＝クロード・ボネ Jean-Claude Bonnet

CNRS 研究ディレクター。ディドロ、メルシエ、ルソー等の18世紀作家を研究、文芸批評家、映画批評家としても活躍。『パンテオンの誕生』（1998）でシャトーブリアン歴史大賞を受賞。「ポエチック」誌、「18世紀」誌編集同人。

堀江敏幸 Toshiyuki Horié

早稲田大学文学学術院教授、作家、フランス文学者。『おぼらばん』（1999）で三島賞、『熊の敷石』（2001）で芥川賞、『雪沼とその周辺』（2004）で谷崎賞・木山賞、『正弦曲線』（2010）で読売文学賞（随筆部門）を受賞。

司会・野崎 歓 Kan Nozaki

東京大学大学院人文社会系研究科准教授。

2010年11月18日（木）午後6時～8時@東京大学本郷キャンパス・法文2号館2階1番大教室。入場無料、予約不要、同時通訳あり。主催・東京大学文学部フランス文学研究室